諸職摸様雛形 上

諸職模様雛形序

温古知新とハ宜なるかな[illegible]時の令[illegible]國
ここに工業上發明改良を企圖し、且つ技能養
成し、年々歳々美術中一とも美なるを見る、
是則ち多くハ其古きを温て新しく
發明を為し、且改良加ふるに由るなり、實に
工業ハ富國の基本なれバ、明治政府も内國勸業
博覽會を開設し、又共進會を開き、緻密有り
好拙の品評を付し、之に階級の賞與これあるも其高
尚ましてハ精工美術の進歩を勸むる所以なり、

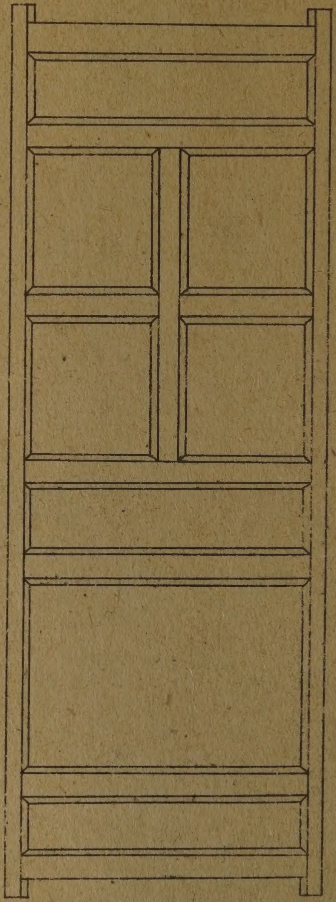
第貮拾號
藏書

故に余ハ今茲に百工の模範を集録し名付て
諸職模様雛形となんいへり、従来其業に携る者是に
の姿を摸ぶして能く知る処あれバ嗚呼なる業に
似たれども、江湖諸君の参考に供し以て発明改良
の鴻志を補翼せんとも乞ふ愛覧なして微助とも成
なし玉はゞ著者が幸福之に過ぎずと聊贅言を陳
て序文に代る、

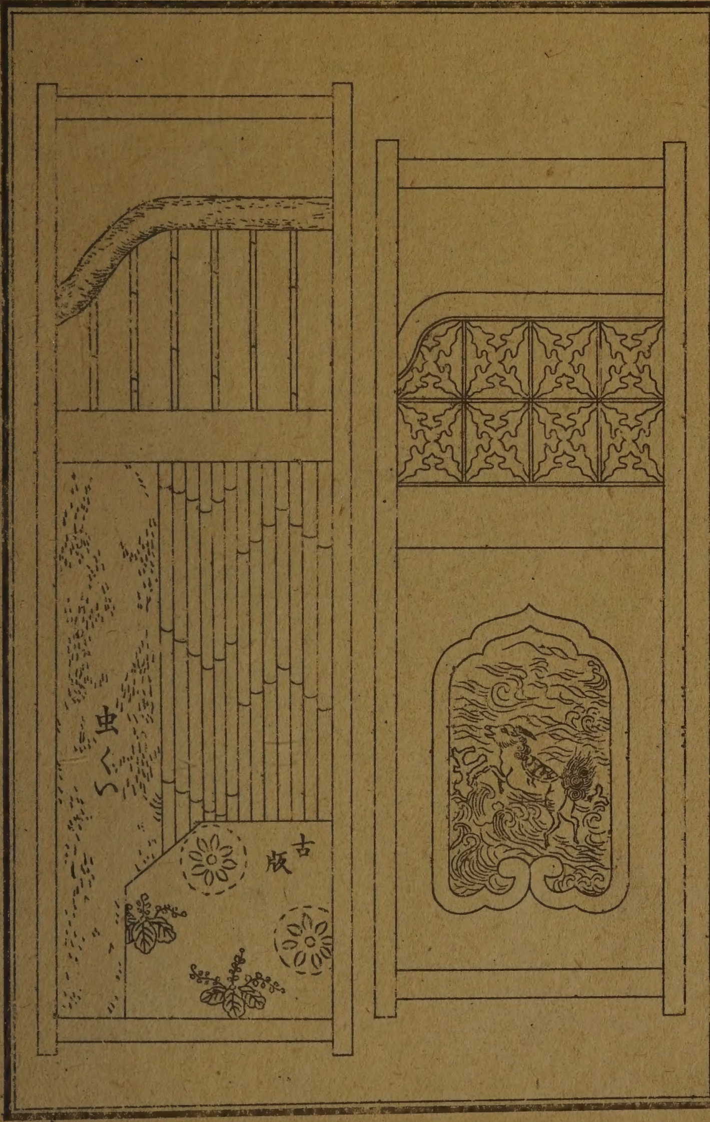
明治二十二年[illegible]五月

編者誌

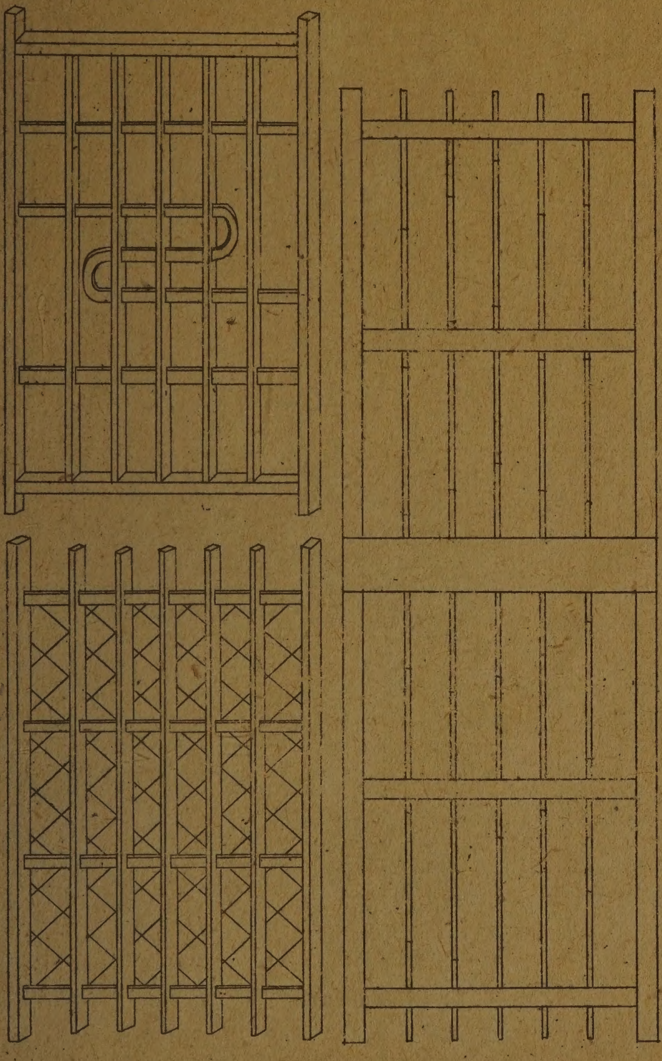
殿舎扉

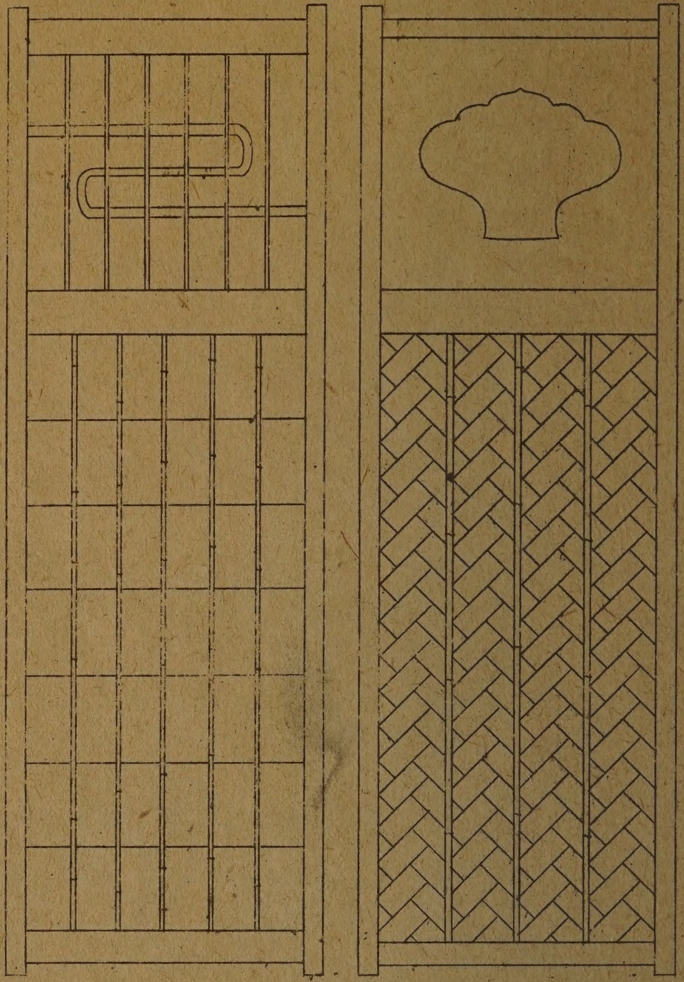


全開き戸

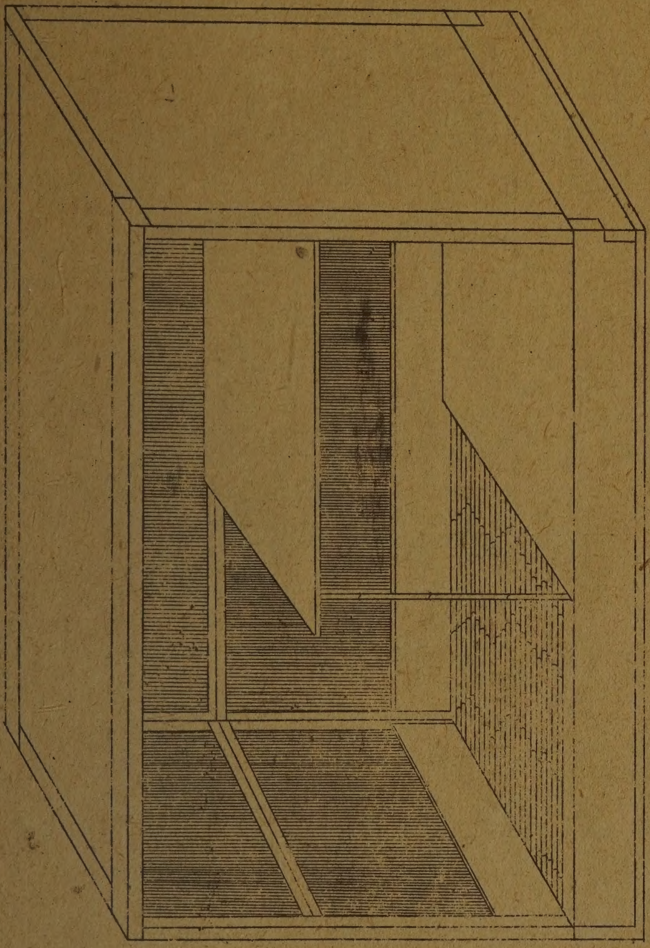

虫くい
古版

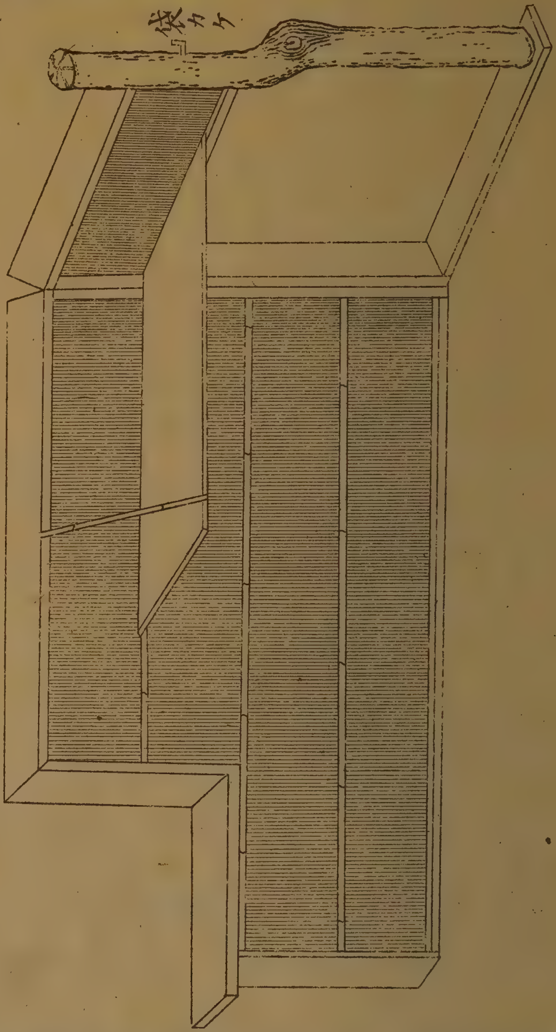
八重菱障子





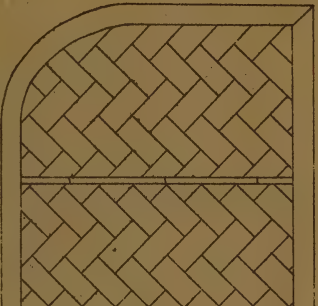
置水屋

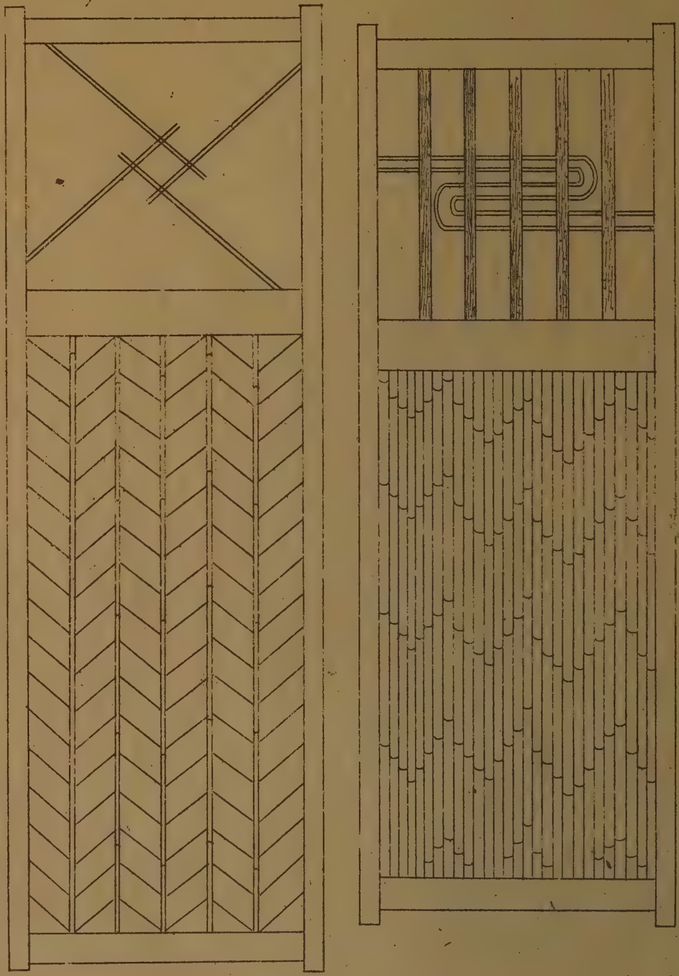


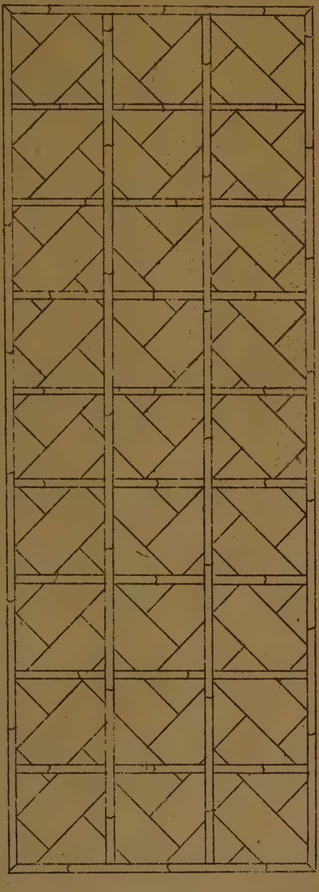


遠州水差屏風

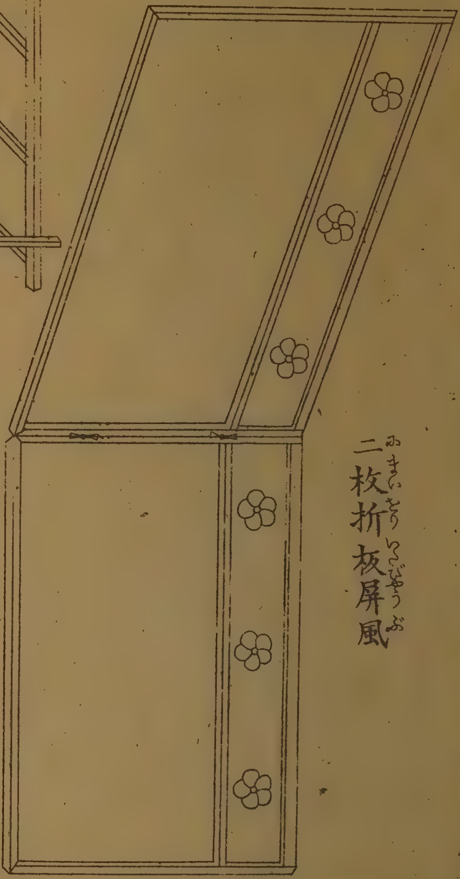
網代(あじろ)





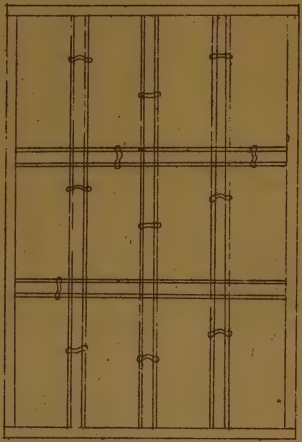

あじろひらき戸

ひらき戸

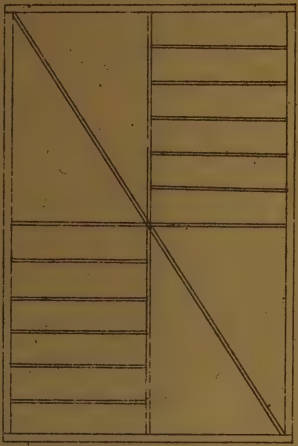


二枚折板屏風（ふたまいをりいたびやうぶ）

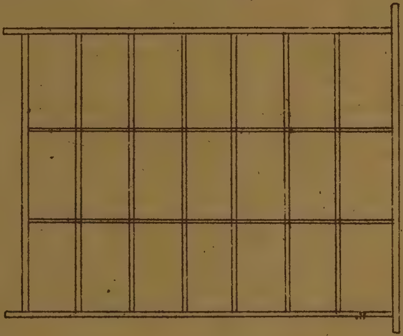
小窓 きやうじ



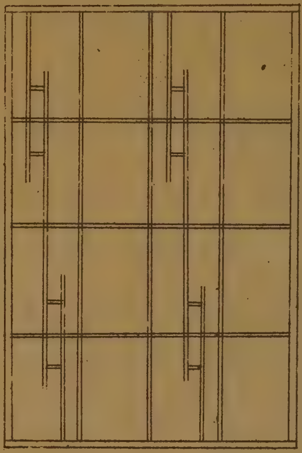
同上



同上

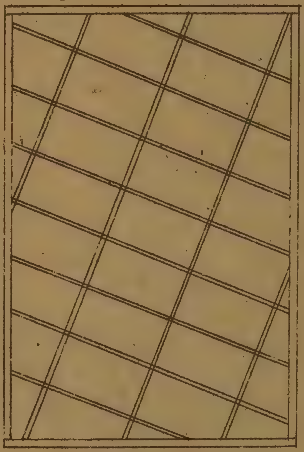


同上

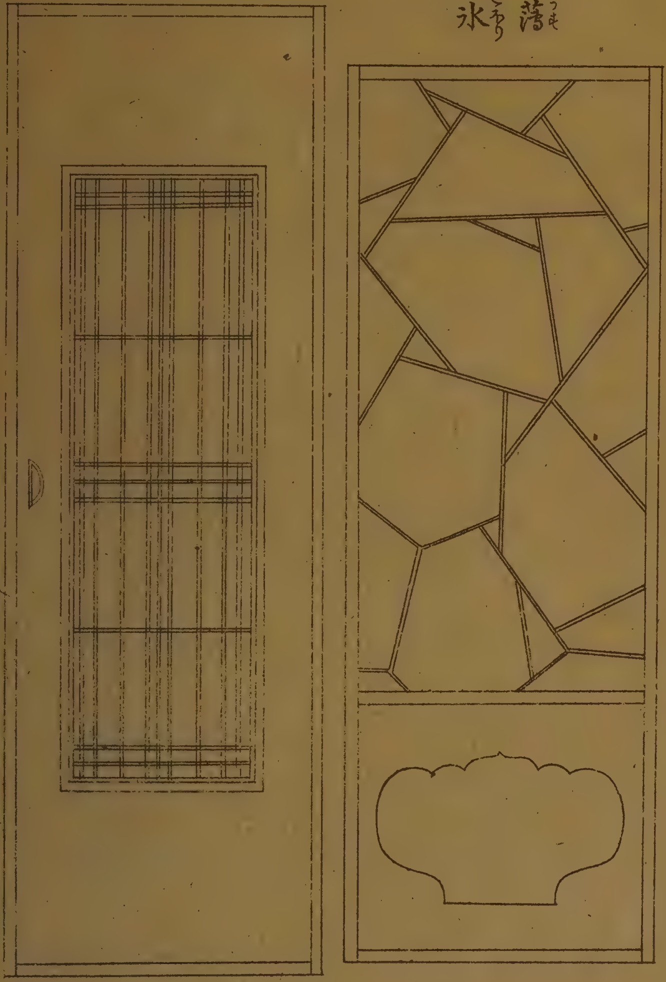


同上

同上

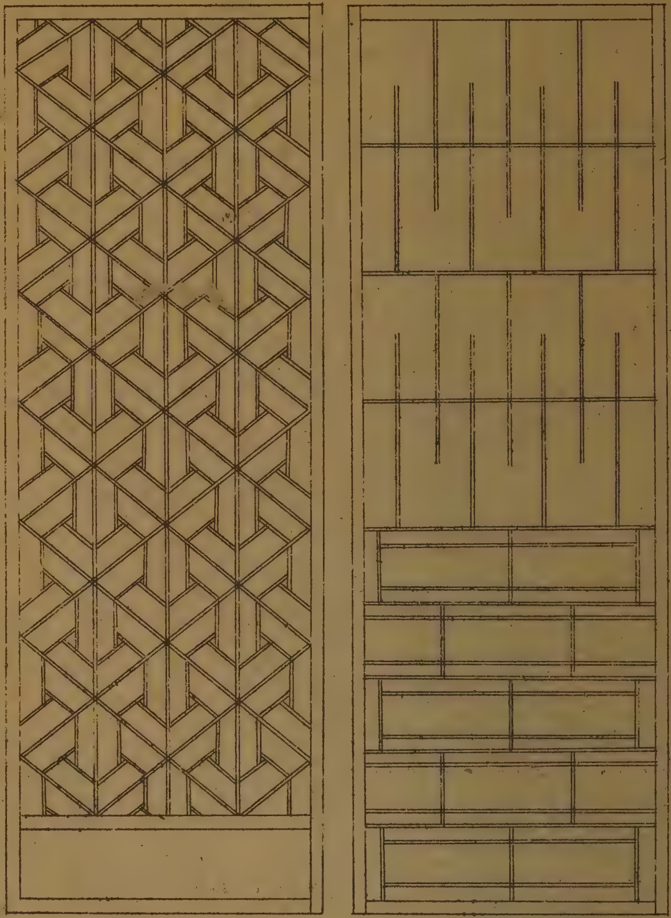


同上 二字くずし

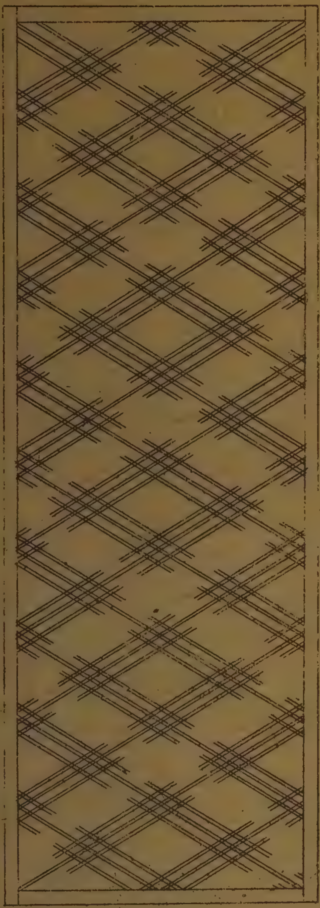

浮氷

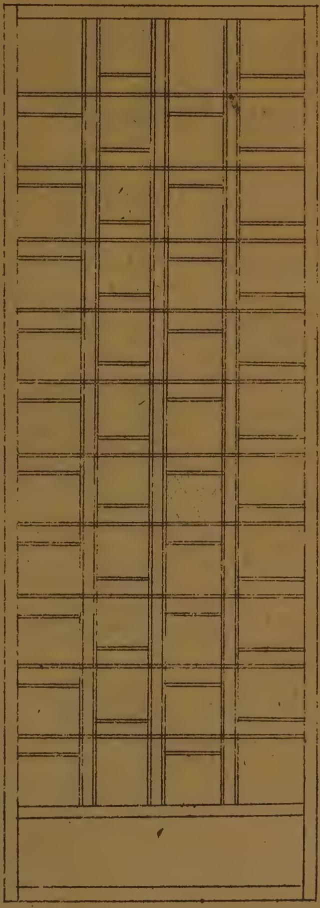
毘沙門（びしやもん）

亀甲（きつかう）

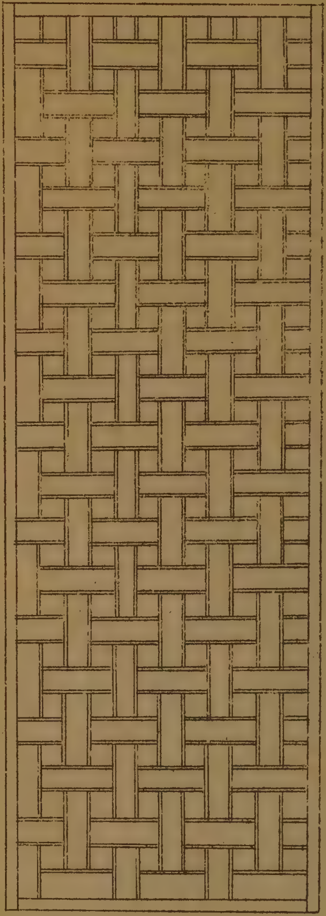


三筋びし

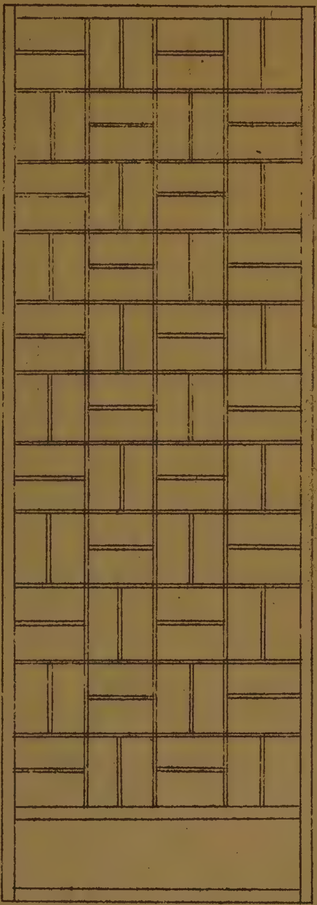




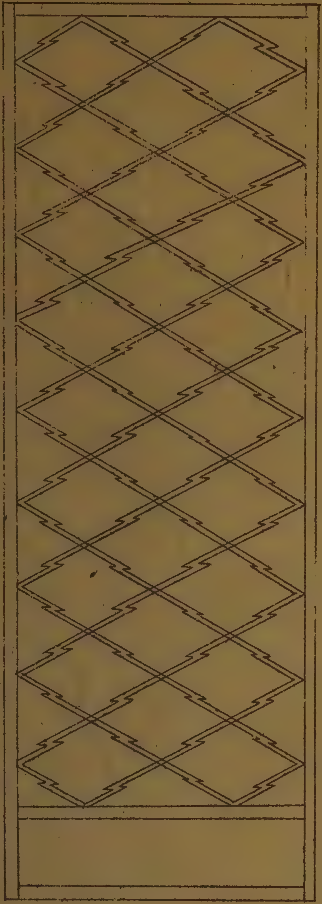
四ツ目こうし



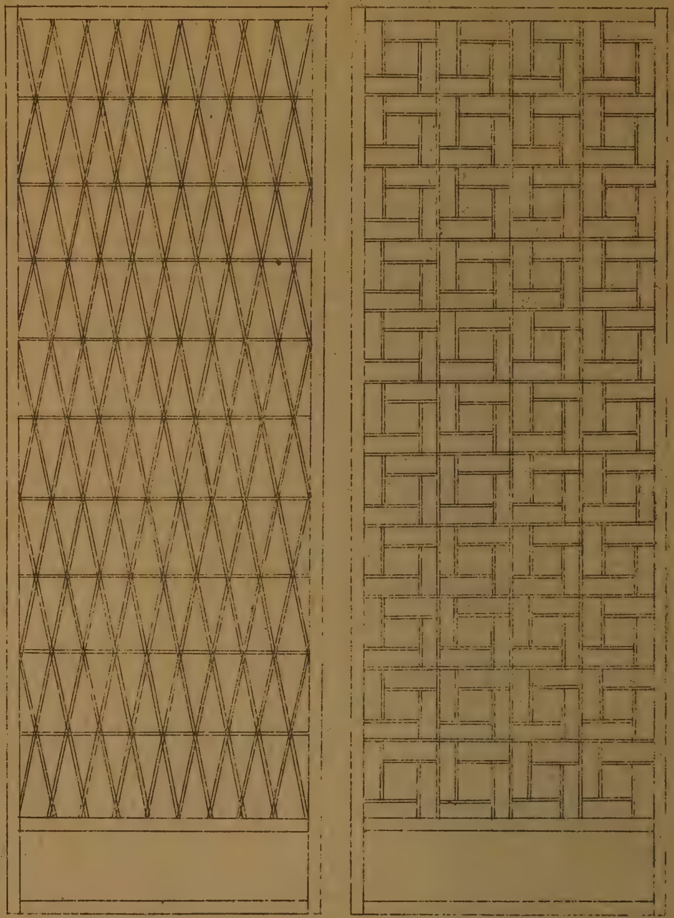
二字違



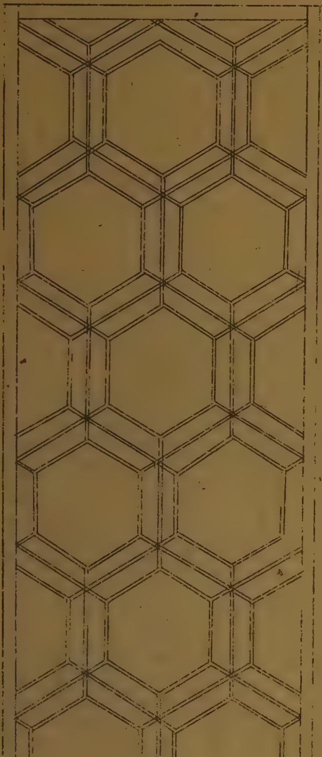
松皮菱

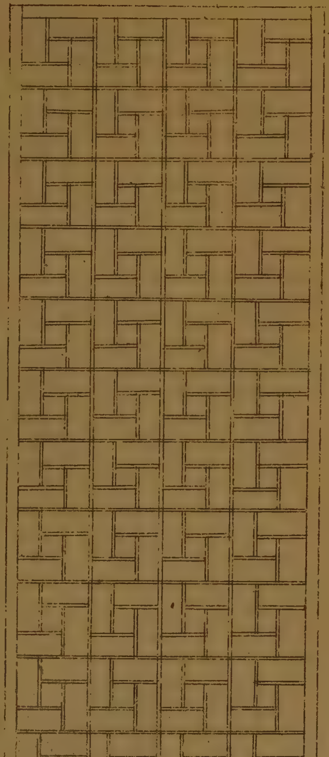


たてびし

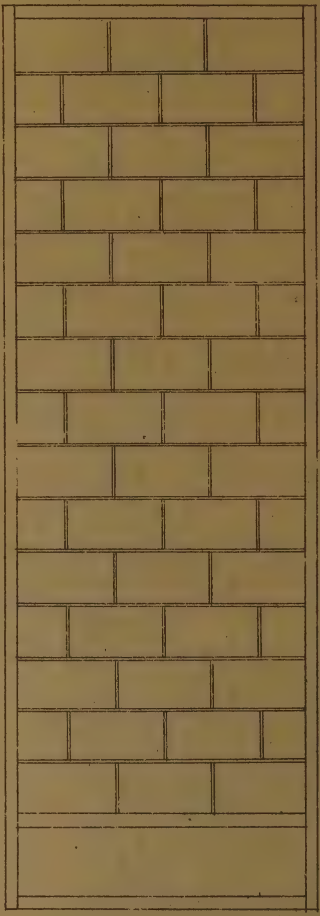


亀甲

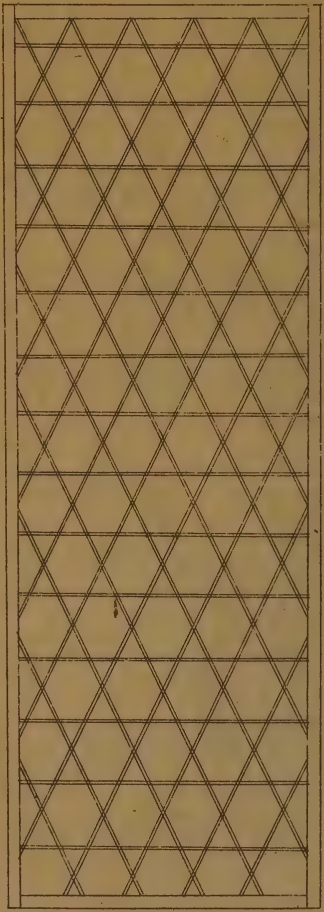




一ノじ つなぎ

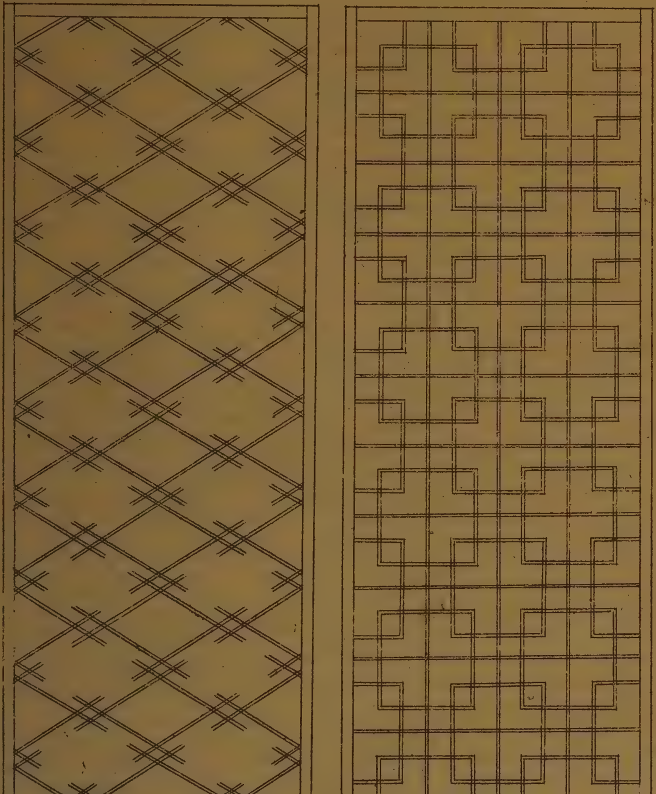


花かごめ

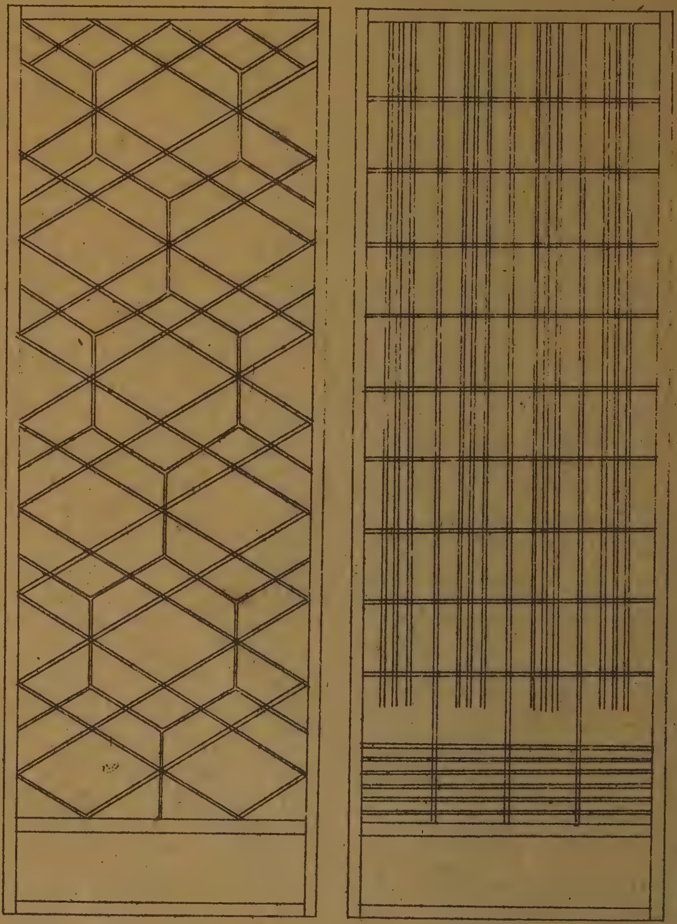


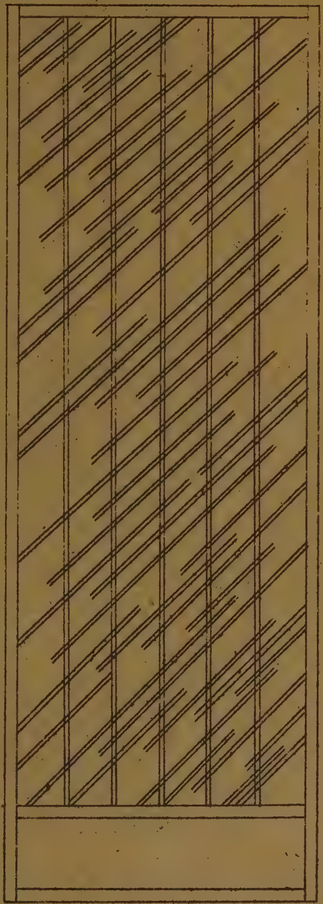
外つなぎ

八重くみひし

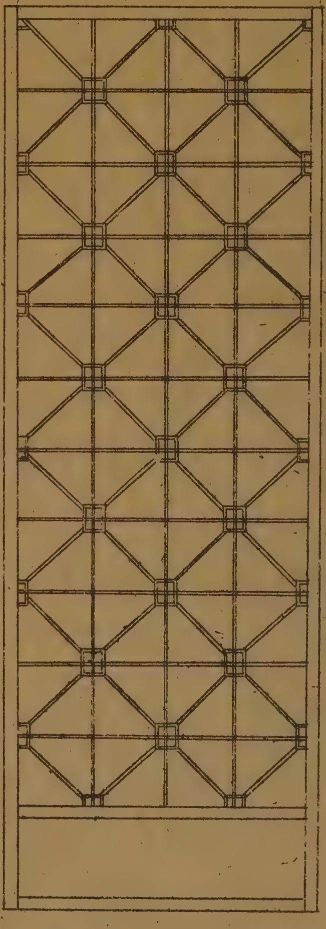


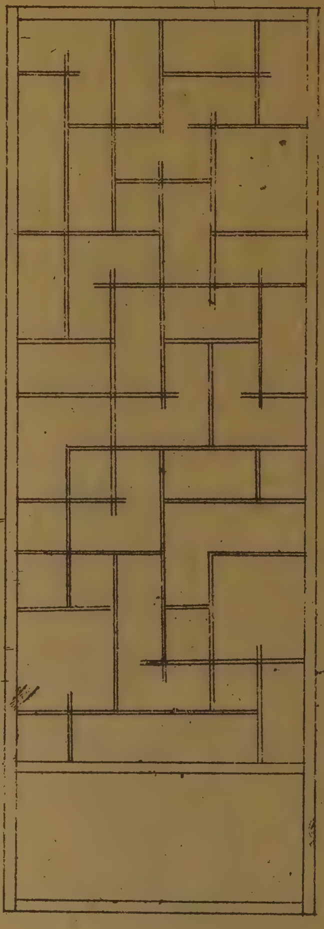
亀甲菱

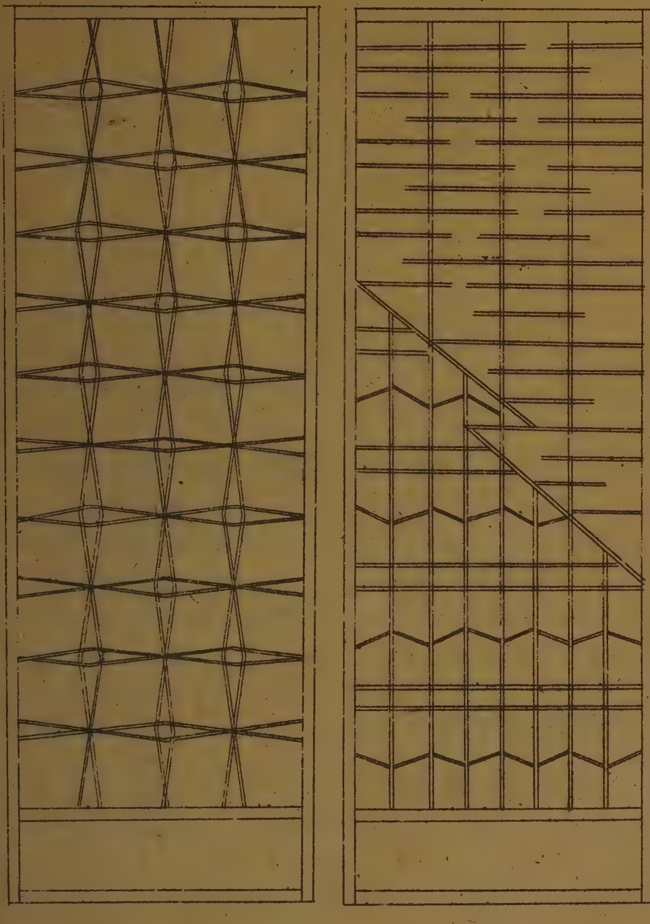


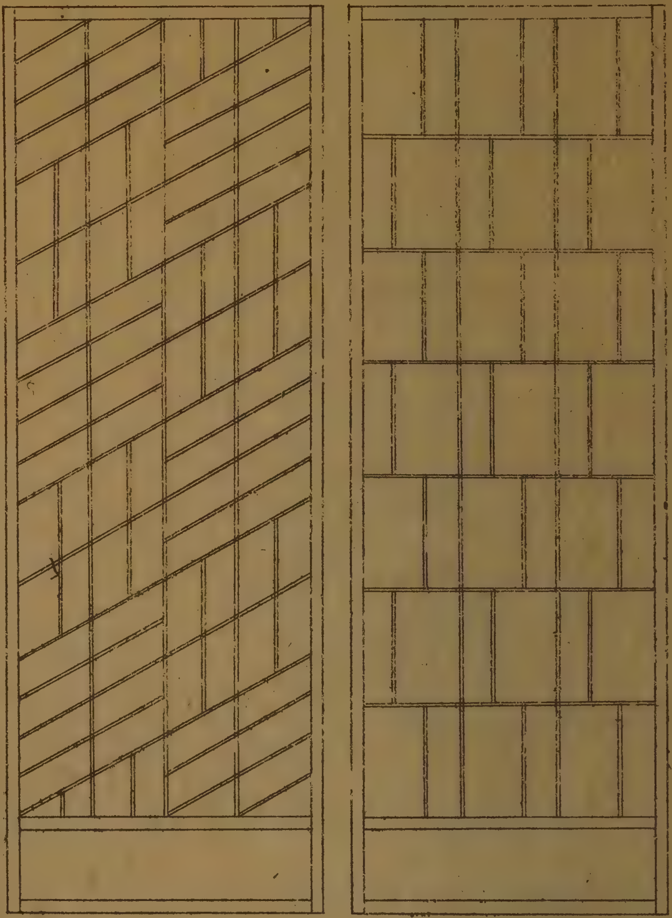


八角
志よろこう

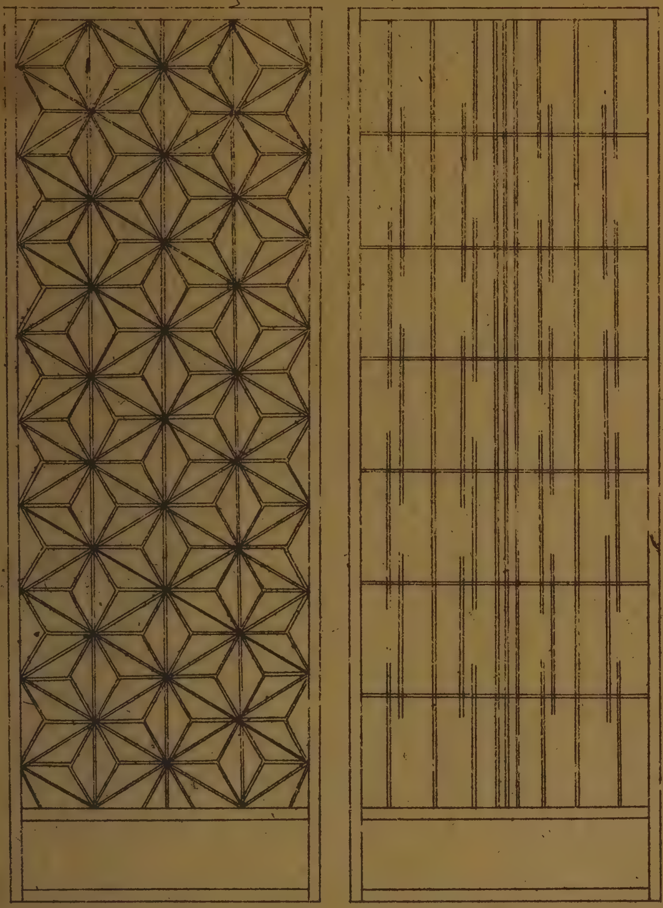








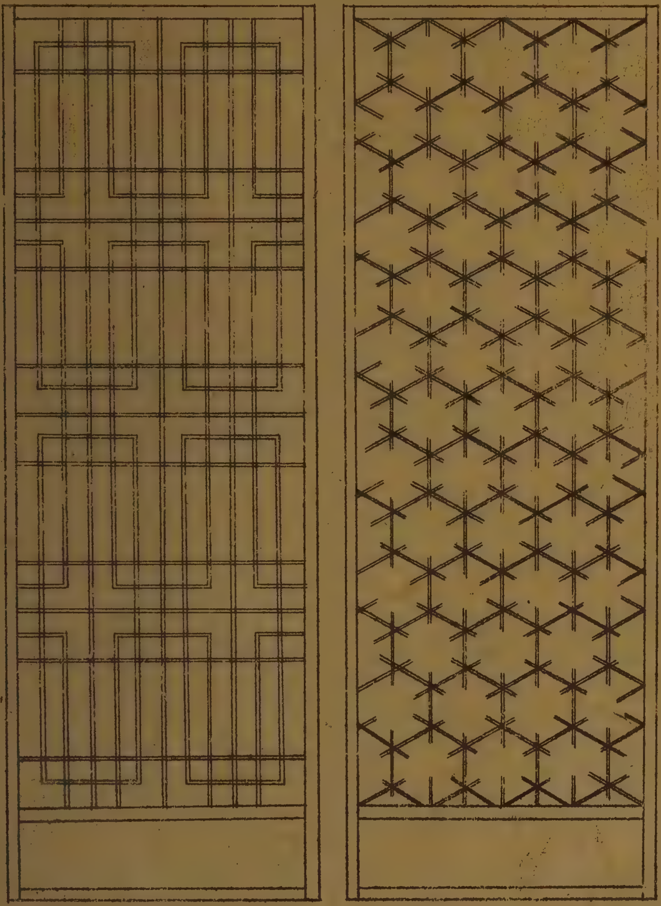
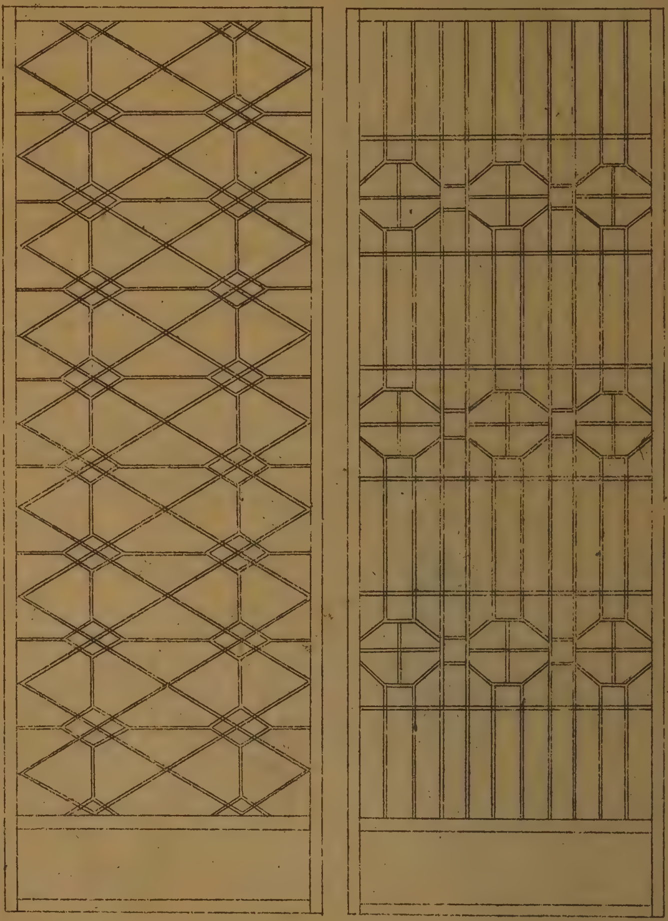
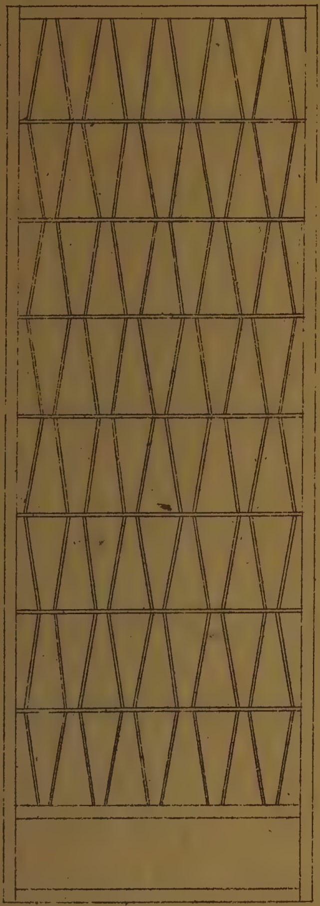
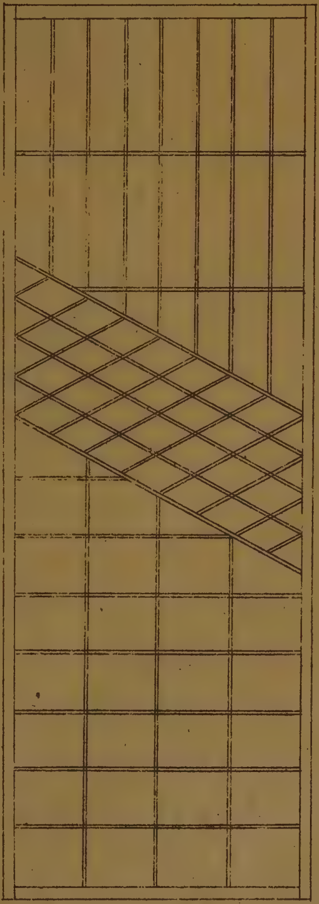
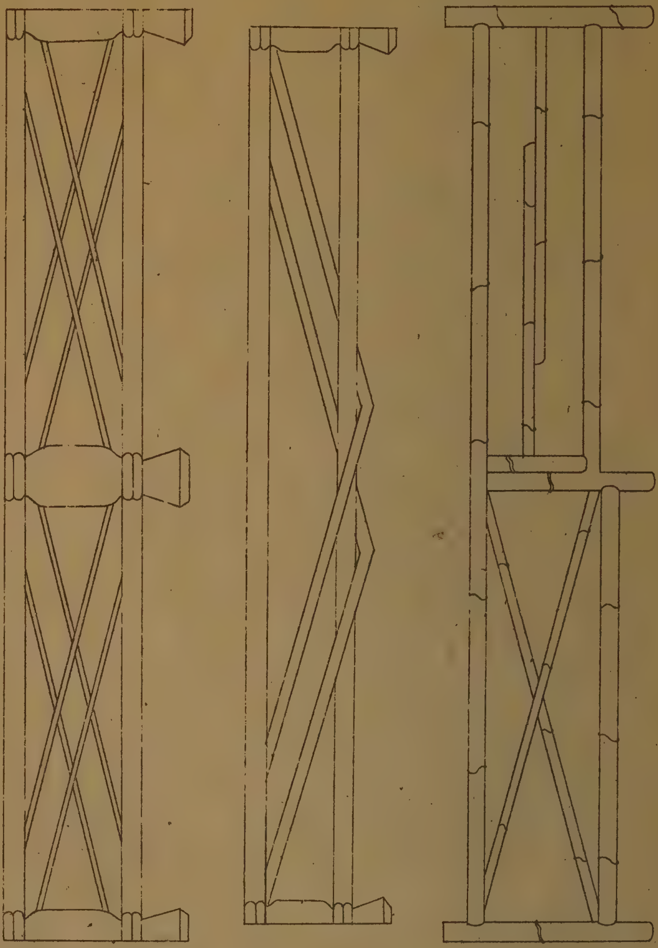
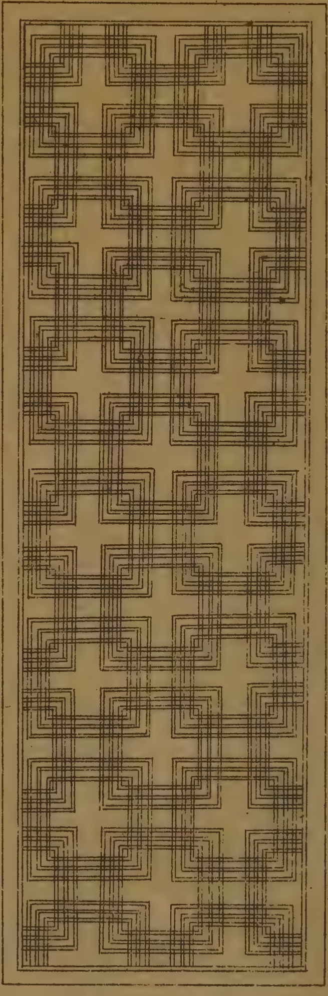
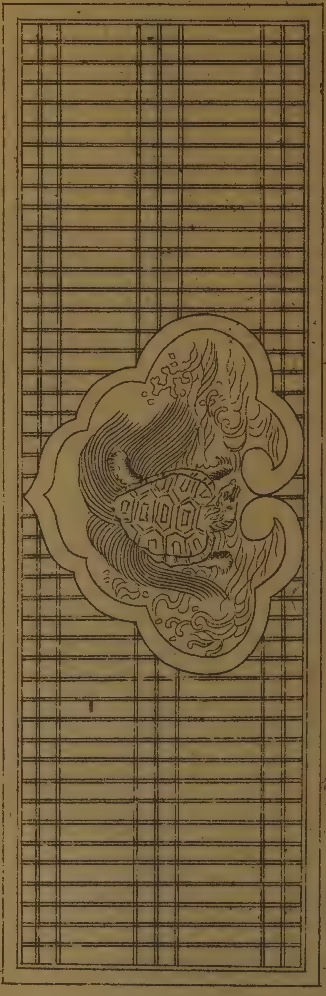
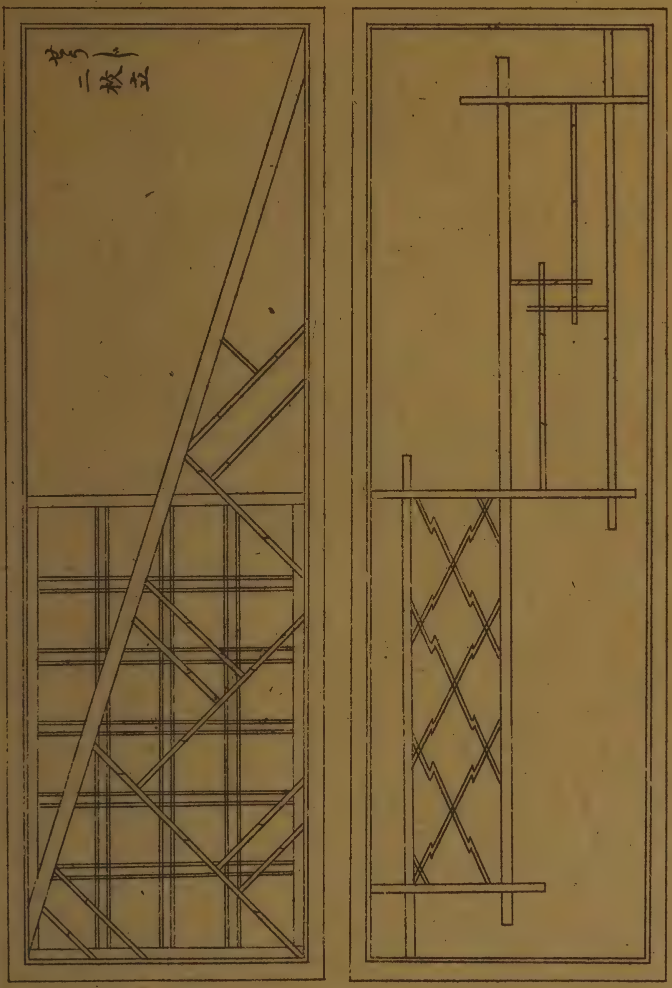
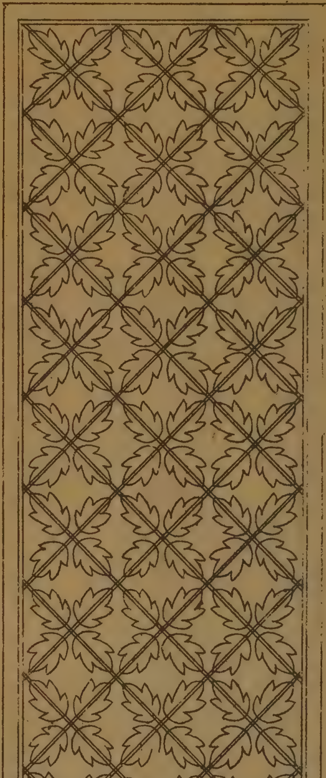
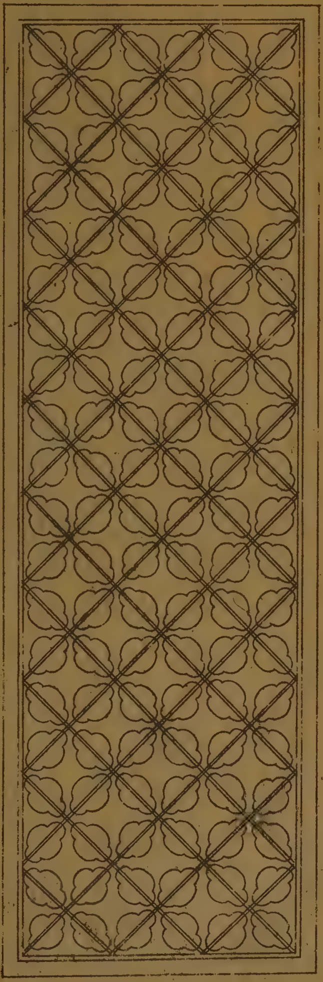
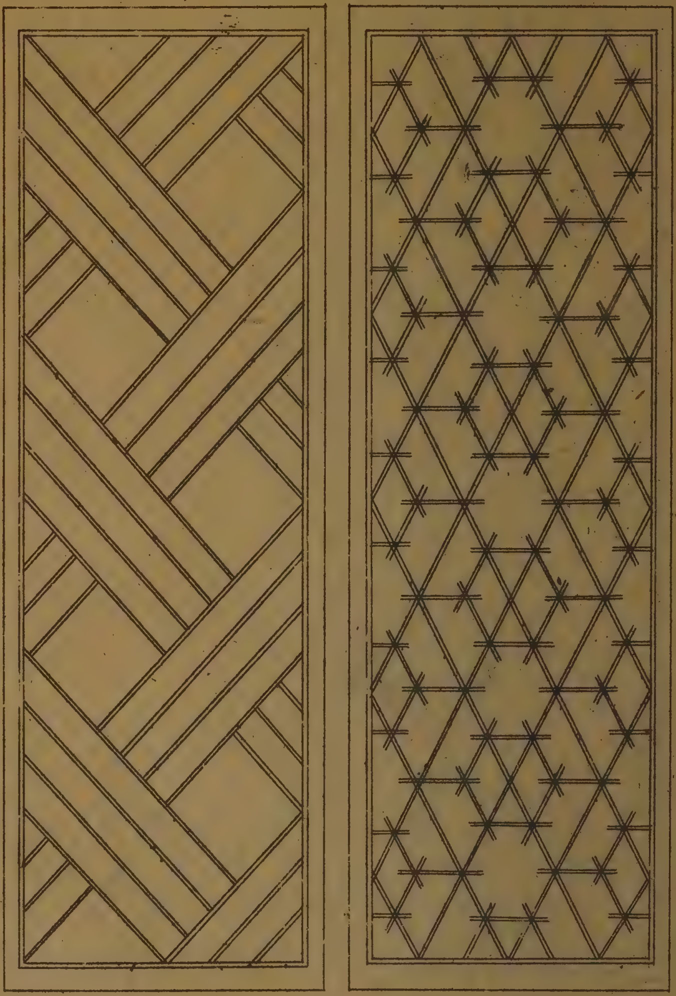
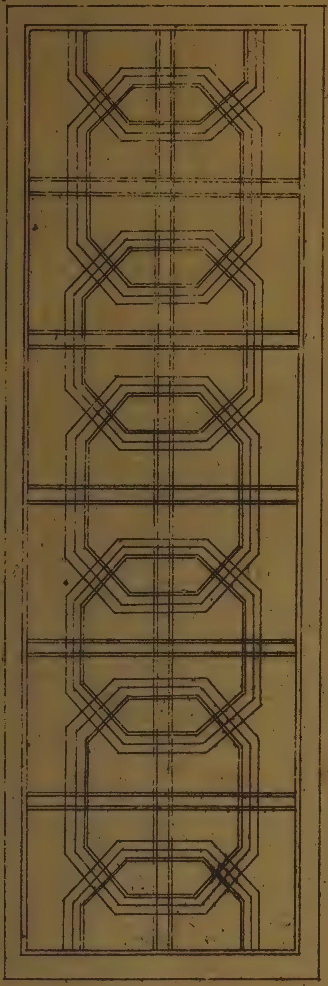
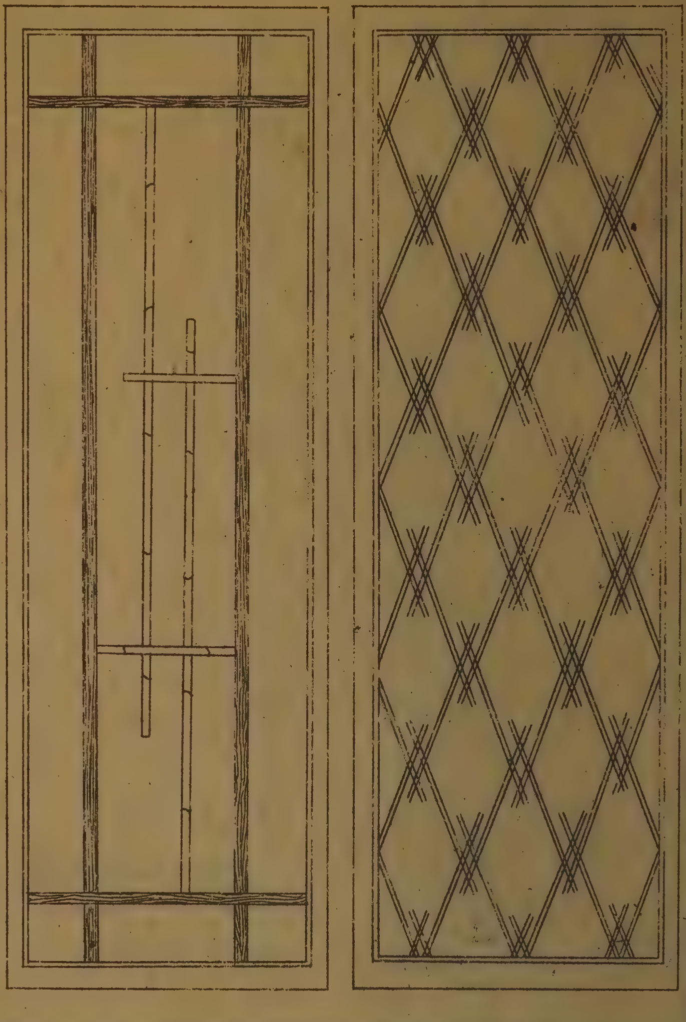
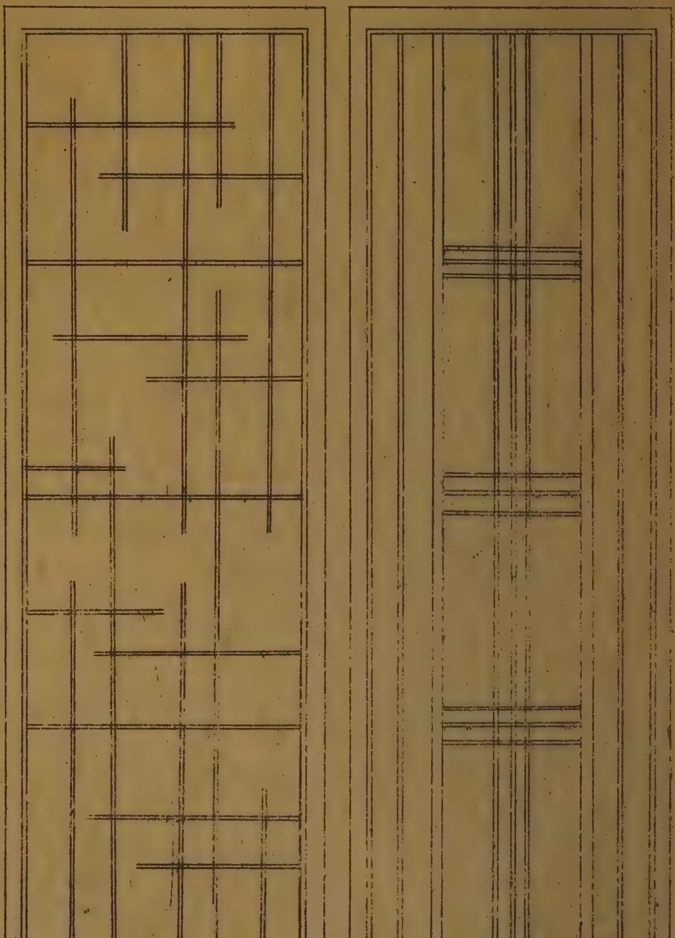
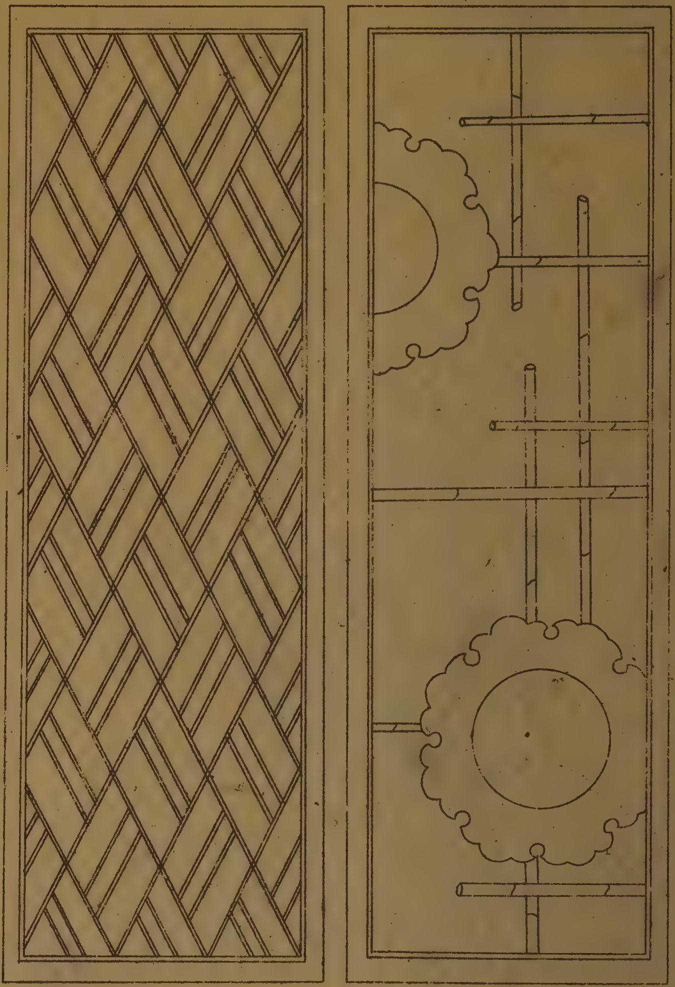
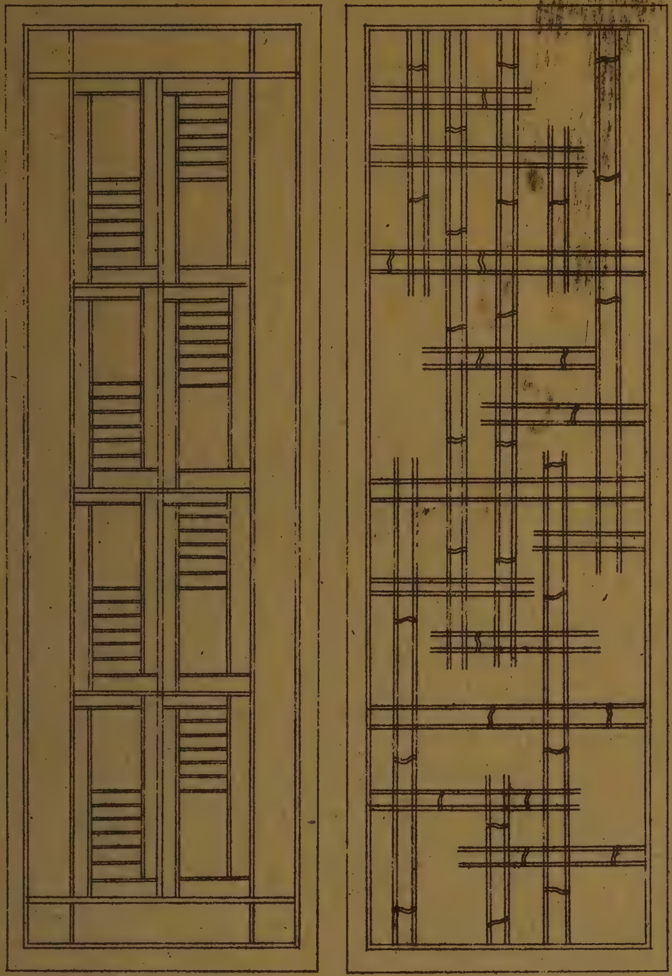
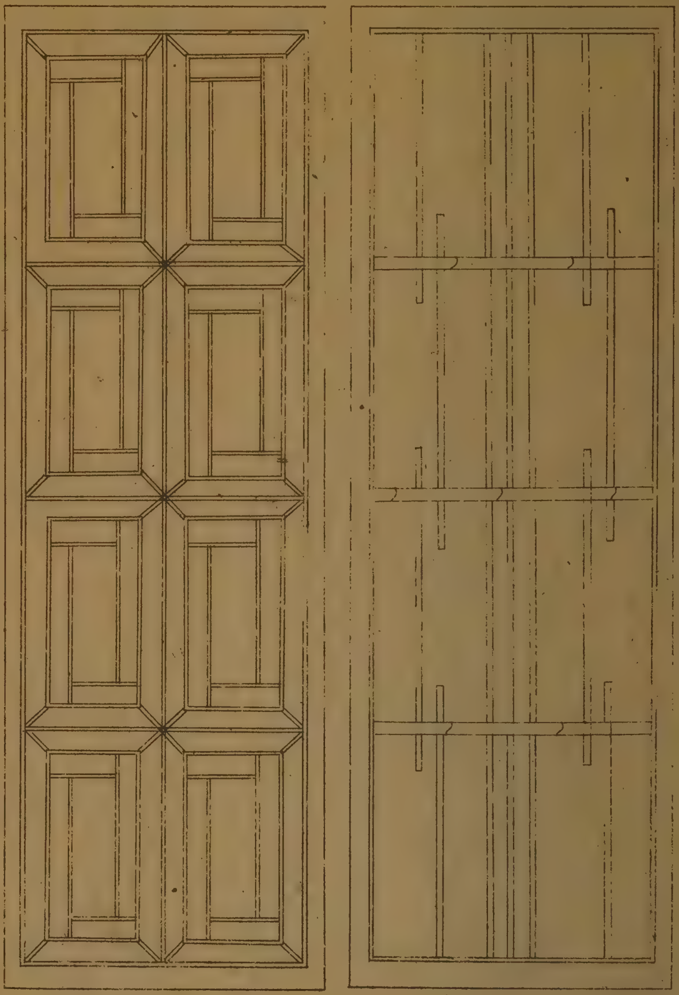
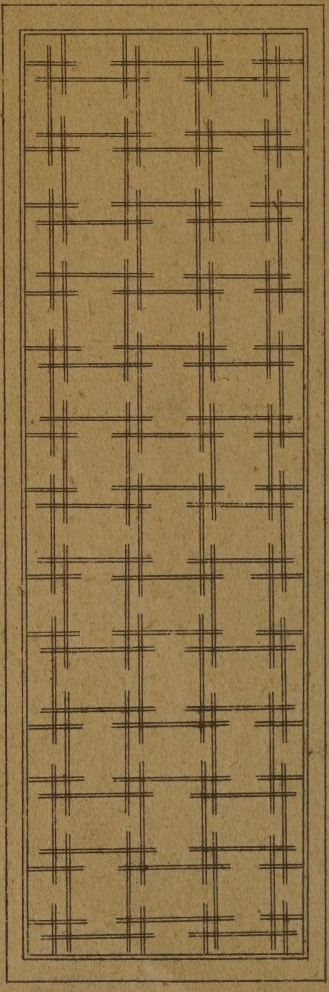
麻ノ葉



あじろ

井筒

龜甲



きりこつなぎ